

読み聞かせから読書へ

親子で一緒に読書を楽しむポイント

絵本の読み聞かせは、子どもの心を育みます。そこから一歩進んで、一人で読書ができるようになると、心はさらに大きく成長します。読書は単に知識を増やすだけでなく、創造性や感受性、理解力を高め、豊かな生き方を開拓することにもつながります。



アドバイスをいただいた方
富山大学名誉教授 宗孝文先生

絵本の読み聞かせは、子どもの心を育むことは、絵本は心のお乳です。読書にも同じような恵みがあります。ただ、同じ本を読む行為でも、読み聞かせは受け身であるのに対して、読書は能動的なもの。読み聞かせで絵本に親しみつつある生活習慣を、自立的な読書へと結びつけるのが、そのポイントです。以下の4つにまとめました。

- ① みんなで
- ② 毎日
- ③ 好きな本を
- ④ ただし、読む

お父さんお母さんがテレビを見ていたのでは、今、ゲームなどいろいろ楽しいことがたくさんある中で、「読むのが楽しい」という気持ちになることが、まず大切です。それは、習慣として身につくまでは、家族みんなで読書タイムを設けましょう。そして好きな本を読むマンガは別として、これを読みなさい、あれはダメですと押し付けけないことです。考えようによっては、歴史や伝記、名作をマンガ化したものもいじょう漢字にはフリガナが振ってあり、習っていない漢字も読めますし、マンガを入りに原作を読むこともあります。ただ、読むというのは、いわゆる読後の感想を求め、それを評価しないことです。読みたい本を読んだら、楽しかった、あるいは期待したほど面白くなかった、それいいです。また子どもが感じた「面白かった」「怖かった」を引き出し、それに共感しましょう。読書はあはれの意味、習慣化のひとことです。単に強制しても身につけません。本のある生活、読書に親しむ時間を、親子で一緒に楽しむと、読書の習慣は自然と身につけてくるものです。



本のある環境を

- ① 生活の中に本を
子どもが興味をもちそうな本や絵本をリビングなどに置き、いつでも本を手にとれるようにしましょう。
- ② 図書館・書店に足を運ぼう
月に数回、家族みんなで図書館（書店）に出かけて、本を借り（買い）ましょう。



本に親しむ時間を

- ① 親子で一緒に読書を
子どもが本を読むときは、お父さん、お母さんも一緒に読みましょう。
- ② 読書を習慣に
5分でも10分でも、できるだけ毎日時間を決めて本を読みましょう。
- ③ 子どもをほめる
子どもが本を読んだら、ほめてあげましょう。



本について一緒に語ろう

- ① 同じ本を読もう
親子で同じ本を読み、面白かったところや登場人物の気持ちなどを話し合ってみましょう。親子の会話はますます。
- ② ちがう本を読んでもみよう
親子で別々の本を読み、「この本はここが面白かったよ」と、お互いに本の紹介をしましょう。
- ③ 子どもの感想を評価しない
子どもの感想をそのまま受けとめ、「お父さんも同じように思ったよ」と共感したり、「お母さんはこんなふうに思ったよ」と違う見方を紹介したりしましょう。

読んであげよう、読んでもらおう

- ① 子どもに読んであげよう
子どもは文字が読めるようになってくると、内容をすぐに理解できるわけではありませんが、性急に「読んであげよう」と、世界と一緒に楽しませましょう。
- ② 子どもに読んでもらおう
読むことがうまくなってきたら、たまには子どもに読んでもらいましょう。話まったり、間違えても怒らな



読み聞かせは、読書好きの種まき
ブックスタートボランティア高岡らっこ会

高岡らっこ会の会長、津幡敬子さん（会員42名）では平成13年より、高岡市保健センターでの3か月児健診に訪れた親子を対象に絵本の読み聞かせと絵本のプレゼントを実施。小学校でも読み聞かせを行うていですが、健診の時のことを話すと「あの絵本は、ホロホロになるまで読んで、という子どもに出会うことが10年に及ぶ読み聞かせの経験から、津幡会長がい

「読み聞かせや絵本での楽しい思い出は、子どもの心に読書好きの種まきをしていこうなものです。たくさん種をまいておくと、学年が育ち、一人で読書を楽しむことができるようになるのではないですか？」
絵本で楽しい思い出をたくさんつくり、多くの種をまきましょう。



「読みたい」と思った本が、図書室にあるように
学校司書、担任、市民図書館などが連携する子どもを本好きにする大作戦

小矢部市では、子どもがより読書に親しむことができるよう、学校、市民図書館、市役所が協力して行っています。

大谷小学校、図書館、市の試み
先生も一緒に朝の読書を楽しむ
すでに多くの小中学校で導入されていますが、大谷小学校でも朝の10分間、先生と子どもたちが一緒に本を読みます。

学校図書館市の連携
学校では、学校司書、図書館司書と連携し、授業に関する関連本の紹介と市

市民図書館からの借り受け（配送・集荷は市が担当）も行います。こうして学校、図書館、市が連携することで、子どもが「読みたい」と思った本がいつでも学校の図書室にあるような環境を整えてきました。

絵本に親しむ工夫を
市内の幼児保育園の園児をおとぎの館（市民図書館分室）に招待し、絵本のある楽しい空間を提供しています。おとぎの館では絵本の読み聞かせ、手づくり絵本教室や名作アニメの鑑賞会なども行っています。

「絵本をおもちゃの感覚で楽しむ」
来他に夢中になるものが増えても、低学年で身についた読書習慣は、忘れることはないという司書の方々の言葉は印象深いものでした。

お薦めの絵本・本
富山県立図書館の協力により、幼児・小学校低学年向けに、下記の絵本本をリストアップしました。繰り返し読んでお楽しみしましょう。
（絵本もおもしろい！）
には、乳幼児から小学校低学年にすすめたい絵本（本が100冊紹介され、下記ホームページでも紹介しています。ぜひご覧ください）

<http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/e-book.html>

「さんねんかん」
作：李鐘玉 刊：岩崎書店

「ランパンパン」
再話：マギー・ダフ 訳：山本浩一 刊：評論社

「はじめてのおつかい」
作：橋本和子 刊：福音館書店

「かいじゅうたちのいるところ」
作：モーリス・センダック 訳：山本浩一 刊：福音館書店

「ひとりぼっちの王様ライオン」
作：岸田裕子 刊：福音館書店

「くわばらぼうし」
再話：橋本和子 刊：福音館書店

「タンゲくん」
文：絵：沖山隆 刊：福音館書店

「みんなうち」
作：五味太郎 刊：福音館書店

感想・意見募集
「お薦めの絵本」にて、写真付きで紹介している5冊を、抽選で5名の方にプレゼントします。お名前、住所、電話番号（ご希望の絵本（本）を明記の上、ハガキで応募ください。）

〒930-0800 富山県教育委員会生涯学習文化財室かわら版「はつたタイム」感想係（住所記載は不要です）

締め切りは1月10日

毎月第3日曜日は家庭の日